

「とちぎの子ども育成憲章」の実践

活動名	親子いきいき陶芸教室		
年月日	平成24年7月22日	場所	益子町 益子焼窯元共販センター
参加者	町内の小学生、保護者	人数	45名

関連する憲章の条文

子どもたちとのかかわりを深め 思いやりの心をはぐくみます
子どもたちとともに 学び 喜び 励ましあい 社会の一員としての自覚を育てます

益子町更生保護女性会では、毎年小学生やその保護者を対象に親子いきいき陶芸教室を実施しています。親子いきいき陶芸教室は今年で10回目、益子町更生保護女性会が主催となってからは5回目を迎えます。

町内の小学校に参加者の募集を依頼したところ、45人もの応募がありました。こんなに多くの応募があったのは久しぶりで、うれしいかぎりです。45人中7割近くが子どもで、とても人気がある教室です。親や祖父母におねだりして参加する子どももいました。さすが陶芸のまち益子だけあって、幼稚園や保育園で何回も焼き物を作っているよという子が多くいました。

益子焼窯元共販センターの先生が、皿やカップなどの作り方を丁寧に教えてくれました。ひととおりの説明の後、早速作成に取りかかりました。粘土を触ってこねているうちに、だんだんと作りたいものが定まった人もいれば、前もって作りたいものを考えてきた人もいました。いずれにせよ粘土をさわった瞬間から夢中になり、みな黙々と形づくりに励みました。親が真剣（夢中）になって取りかかっている姿が印象的でした。子どもはそんな親の姿を見てさらに夢中になってきました。

作り始めてから1時間ほどたち、完成に近づいてきました。いよいよ最後の仕上げです。やはり最後は親の出番、きれいに仕上げて完成です。



受付の様子



説明をよく聞く子どもたち



親子で同じものを作っています



親子が一緒に作っています



最後の仕上げ



仕上げはお母さんと

出来上がったものを見てみると、独創的な形のものがありましたが、多くは皿のようなものでした。はじめはみな同じ粘土のかたまりだったのが、出来上がりは全く違う形になる、これが焼き物を作る楽しみだと感じました。

この後、素焼き、釉薬かけ、本焼きの工程を経て焼き物の完成になりますが、これはセンターの方に任せることにします。作品の引渡しは、8月26日です。

参加した子どもたちに感想を聴いてみました。

- ・楽しかった。
- ・はじめて焼き物作りをしたが、とても面白かった。



形づくりの終わった作品の一部

焼き物が完成したら、親子で作ったときのことを話しながら使ったりながめたり…。親子で作った焼き物は、今後、親子の楽しいひとときを作り出すものとなるでしょう。

親も子もみんないきいきと目を輝かせながら作品作りに取り組む姿を見て、わたしたち更女会は、企画してよかったと思いました。また、いつまでも続けていきたいと感じました。